

いい、これは町長が一番理解されていると思う。前回の町長選挙の際に下村町長の後援会長であった岩崎元町長の当時のことを申し上げると、特に林業などを施策の柱に掲げて、おおよそ製材の誘致などや、その他の施策についても国や県などに積極的に本町を発信し、その政策を展開してきた。

当時の議会でもその政策については、議員間で賛否両論があったが、時には私も議会の代表として行動を共にし、その本町を何とかしようとする熱意、想いを肌にしたものだ。このことは、大石町町長に伝えなければならぬと思う。結果的に下村新町長に交代となった。その岩崎元町長が支援した新町長であれば、期待感を持って見守ってきたが、残念ながらこの8カ月間には、そういった熱い空気感を感じた場面は皆無と言っても差し支えないと思う。我々政治家は、「選挙に当選したら、それでゴー

ルではない」とよく言われる。そこからが政策の実現に向けたスタートである。下村町長に対して政治家論を説くつもりはないが、本町の置かれた状況、危機感、それらを理解し、一刻も早く政策展開をしなければ状況がどんどん悪化しているという自覚があるのか疑問に思う。

▼下村賢彦町長

事業を推進するには、大きなことをどんと打ち出すような仕事のやり方もあると思うが、着実にひとつひとつ課題を解決するという地道な取り組みも必要である。就任以来、住宅の問題は、役場の一般職のときから必要であると考え、「住める住宅」から「住みたいと思える住宅政策」に変えていかなければならぬ。必然的に人の流れ、産業の流れ、経済の流れ、医療や福祉の集約ができてくるなかで、地域特性を活かした機能別展開が必要ではないかと考え、

山村機能、連携機能、基幹機能と、3つの機能に分けて自然条件や社会条件と調和した町づくりを行っていかねければならない。

▼佐藤徳治議員

町長の政策や意思などの職員に対する共有化について聞く。これまで、町長や副町長と協議を行った際と、幹部職員との見解が違ふ場面や、担当職員などと話をしている、政策や施策などの町長の考え方を理解しているのかと疑問に思う場面が少なからずあった。また私の周りにおいても、行政に詳しい方などから似たような話を耳にすることがある。職員に対してどのような周知を行っているか、また自分の政策や考えが、部下に十分周知されていると考えているのか。

▼下村賢彦町長

事務事業に関して、細かい内容までが私に届かなくてはならない場合がある。

就任して以降、計画ができる前から重点的に取り組みたい事項や私が選挙で訴えてきた事項を課長等の会で配布。そしてその内容を検討してもらいたいと指示し、直接担当者と話しながらまた制度設計の思いも伝え事業を進めている。

▼佐藤徳治議員

岩崎元町長は、月に一度は合同朝礼で、職員全体に訓示を述べる場面もあり、また指名された職員は、出席職員の前で堂々と発言している様子を、議長であった私は、拝見していた。

その後、新型コロナウイルスが流行し自粛された。けれども、令和5年度にはそういう社会環境も好転したにもかかわらず、現在では全体の集会は開催されず、定例では班長以上のみが、年度初めと年始に集まる程度となっていることに、強い違和感と失望を感じる。心配するのは役場の内部で、全体会を軽視する風潮があるのではないかと

ということだ。うがった見方であれば、会合をして政策や仕事内容の確認や調整をすることなど面倒くさいというような考えがもし根底にあるのなら、これは由々しき問題だと思う。執行部の訓示することを軽視する組織が、住民の声などに耳を傾けることなどできるはずがない。

▼下村賢彦町長

班長以上への訓示等は、これまでも行ってきたが、就任して以来全職員を集めた合同朝礼は行っていない。しかし毎月課長補佐以上と町政会議のような課長等の会を開いて意思疎通を図っている。

若い職員等々含め職員

とのコミュニケーション若しくは私の思いが伝わっているのかどうかは、直接職員のところに行き行くこともある。職員から私に相談をしに来ることもある。私がいろいろな場面で気付いたことがあれば、課長や補佐に

直接その職員と話をして自由に議論をしてきている。そういったことも含め、職員とのコミュニケーションは一定できていると考えている。

てもその方向で行こうというところで、それに向けた魅力化を図っていくことになった。それが『雲の上の感動をいつまでも』こういった形の事業コン

セプトのもと特別感を出すキャンプ施設やカフェなど、そういったところの運営をしていたかどうかとしている。

▼下村賢彦町長

対応については副町長に一任した。報告を受けた時点では、詳細ははっきりとはしていない。こういった部分は、後々いろいろな状況も分かってくると思うし、法に基づく処分がなされると。それはある一定期間が経ってからということも聞いたので、そういったことも踏まえ、本町にとって重要なCLT全国協議会首長会議もあり出張をした。

Q&A 11

問 ゆとりすとパークの現在及び未来の計画について
答 事業理念とコンセプトに沿う



上池如夫 議員

平成7年プレオープンし約30年経過した中で、町長が令和6年12月から本町の首長として、令和7年3月議会までに指定管理者が契約改正になることを知り得た中で、交流拠点としての充実を図り、交流人口への取り組み方を町長が今ある施設でどのような思いを持って運営していくのか。外部委託ではなく町での運営を目指すべきではないか。町内には十分な

観光資源があると昔から思っている。町内で受け入れをできる年齢層も高くなっており、観光客を誘致しその受け皿として人の雇用を進めて定住できる施策を行うべきではないか。

▼下村賢彦町長

3カ月に1回報告書をいただくことになっており、初報告会が7月初旬にあった。その中でこれからゆとりすとパークをどういった形で運営するのかということ、事業理念とコンセプトの提案があり、こちらの方とし

Q&A 12

問 町職員に対しての管理・指導について
答 指揮命令系統は上司から部下への指示

▼上池如夫議員

令和7年議会から3月、6月、9月（今期提案中）と3回連続の町長等の給与を減額するということは前代未聞である。町長、副町長、教育長が職員だった当時を踏まえて、職員である限りは当然してはいけないこと、当たり前前のことが今出てきたこと、そこをなぜ重く受け止めて対応していかないのか。

7月に職員が重大な交通違反をした時点で、副町長がマスコミ対応をし、答弁をしたことは、なぜ首長である町長のコメントでは無いのか。町長が公務で出張するのは理解したうえで、高知空港で職員の不祥事の連絡が入り、その時点で重大事件

Q&A 13

問 人口減の予測について
答 2700人弱と推測



重森一宗 議員

国勢調査で、平成27年に757人の減少、令和2年に710人の減少があった。これらから見ると、650人前後の

減少が予測される。人口の減少に加え高齢化も進行し、現在84集落の内75集落が、限界集落（集落人口の50%以上が65才）となっている。10年後には1500人前後も予測され、これらについて町長の考えを問う。